

# 2020年3月期 第3四半期 決算説明会資料

2020年2月4日@ステーションコンファレンス東京  
7741.T [ADR: HOCPY US] HOYA株式会社

[メモ付ver.]  
説明会におけるコメントや質疑応答を参考情報として記載しております。説明内容をすべて書き起こしたものではありませんのでご了承ください。

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

司会者：

それではお時間になりましたので【HOYA株式会社2020年3月期 第3四半期決算説明会】を開始いたします。

本日は多くの決算発表ならびに決算説明会が開催されるなか、ご来場いただきありがとうございます。

はじめに登壇者をご紹介します。

CEO の鈴木洋です。

CFO の廣岡亮です。

本日は、スケジュールの都合で情報・通信担当 COO の池田英一郎は欠席となります。

## 1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

2

司会者：

本日のアジェンダですが、はじめにCFOの廣岡より第3四半期の業績について、続いてCEOの鈴木より情報・通信事業、ライフケア事業の概況ならびに全体の総括について、ご説明申し上げます。残りの時間を質疑応答とさせていただき、16:00に終了予定となっております。

なお、前々回の決算説明会より省資源化や環境への配慮から決算短信補足資料、決算説明会資料の紙での配布を取りやめております。ご理解・ご協力のほどお願いいたします。

それでははじめにCFOの廣岡より、ご説明申し上げます。

## 業績概況

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益	1,434	1,465	+31	+2%
税引前四半期利益	397	383	-14	-3%
四半期利益	331	297	-35	-11%
cf. 通常の営業活動 からの利益	399	383	-16	-4%

HDD基板やブランクスにけん引され増収となったものの、コンタクトレンズの消費増税後の反動減などにより減益

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

3

CFO廣岡：

前方スクリーンのプレゼン資料ならびに決算短信補足資料のP.14のP/Lの黄色ハイライト部分をご覧ください。

売上収益は1,465億円、前年同期比31億円の増収(+2%)  
税引前四半期利益は383億円、前年同期比14億円の減益(-3%)  
四半期利益は297億円で、前年同期比35億円の減益(-11%)

## 為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,501	1,465	-36	+67	+5%
税引前四半期利益	387	383	-3	-10	-3%
四半期利益	299	297	-2	-32	-10%

主要通貨	(A)Q3 FY18 レート	(B)Q3 FY19 レート	変動率
US\$	¥112.58	¥109.33	+2.9%(円高)
EURO	¥128.21	¥121.53	+5.2%(円高)
BAHT	¥3.42	¥3.62	-5.8%(円安)

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

4

CFO廣岡：

次に、為替換算の影響をご説明します。決算短信補足資料のP.14下部のP/Lの注記事項を併せてご覧ください。

USドルとEUROは円高が進行し、またコストへの影響のあるパーツが動きました。こちらの表は、各国の事業を連結するときに円換算した際の影響額を記載しています。この為替換算の影響を排除した実質的な増減額は、売上収益については実質67億円の増収(+5%)、税引前四半期利益に対する為替換算の影響は-3億円であり、実質ベースで10億円の減益(-3%)

## 特殊要因等について

### 包括利益計算書

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY
収益合計	1,451	1,482	+31
費用合計	1,054	1,098	+44
減価償却費	65	87	+22
税引前四半期利益	397	383	-14

新リース会計基準の適用により減価償却費が22億円増加したが、その他の費用が減少するため、費用合計に対してはニュートラル。

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

5

CFO廣岡：

本Q3は特筆すべき変動はありませんでした。

減価償却費が前期より22億円増えていますが、現在建設中の工場等の影響ではなく、新リース会計基準の適用によるものです。

決算短信補足資料P.18のブリッジチャートも併せてご参照ください。

## ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	939	925	-14	-2%
税引前四半期利益	191	153	-38	-20%
cf.通常の営業活動 からの利益	196	157	-39	-20%
cf.通常の営業活動 からの利益率	20.9%	16.9%	-4.0pt	

\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

6

CFO廣岡：

ライフケア事業の売上収益は925億円、前年同期比14億円の減収（-2%）  
セグメント利益（税引前利益）は153億円、前年同期比38億円の減益となりました（-20%）

前四半期（Q2）は消費増税前の駆け込み需要があり、コンタクトレンズはその反動で売上と利益が落ちました。また、コンタクトレンズほど規模は大きくありませんが、メガネレンズも消費増税の影響で日本の売上が落ちています。

決算短信補足資料P.16も併せてご覧ください。

## ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q3 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	951	925	-26	+12	+1%
税引前四半期利益	153	153	+0	-38	-20%
cf.通常の営業活動 からの利益	157	157	-0	-39	-20%

\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

7

CFO廣岡：

ライフケア事業においては、主にユーロ安により-26億円の影響があり、実質的な増収額は12億円でした(+1%)。  
セグメント利益(税引前利益)に対しては、為替換算の影響はほとんどありませんでした。

決算短信補足資料P.16の下から2番目の表も併せてご参照ください。

## 情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	483	527	+44	+9%
税引前四半期利益	215	235	+20	+9%
cf.通常の営業活動 からの利益	216	236	+21	+10%
cf.通常の営業活動 からの利益率	44.7%	44.9%	+0.2pt	

\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

8

CFO廣岡：

情報・通信事業の売上収益は527億円、前年同期比44億円の増収（+9%）  
セグメント利益（税引前利益）は235億円、前年同期から20億円の増益となりました（+9%）

前四半期（Q2）、日韓輸出管理強化に際し、顧客によるマスクブランド在庫確保があったため売上が上がっており、本四半期は反動で利益率が若干落ちています。



## 情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q3 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	536	527	-10	+54	+11%
税引前四半期利益	238	235	-3	+23	+11%
cf.通常の営業活動 からの利益	240	236	-3	+24	+11%

\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

9

CFO廣岡：

情報・通信事業の売上収益に対する為替換算の影響は-10億円であり、これを加味すると実質的には54億円の増収でした（+11%）

セグメント利益（税引前利益）は、為替換算の影響を除くと、実質的には23億円の増益（+11%）

情報・通信事業についても、決算短信補足資料P.16の下から2番目の表を併せてご参照ください。

## サブセグメント別業績

ヘルスケア関連製品 売上収益 メガネレンズ / コンタクトレンズ				
(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	693	668	-25	-4%
為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	686	668	-7	-1%

\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

10

### CFO廣岡：

ヘルスケア関連製品（メガネレンズ、コンタクトレンズ）の売上収益は668億円、前年同期比で25億円の減収（-4%）  
為替換算の影響を除くと実質的には7億円の減収（-1%）

コンタクトレンズは増税後の反動で8%の減収となりました。

メガネレンズはアメリカで苦戦しており、利益率も落としています。利益率が落ちた要因としては大きく2つあります。ひとつ目は、ベトナムの新工場が立ち上げの最終段階であり、Q3は準備やテスト生産でコストが先行しました。また、ベトナムの増産だけでなく、全体の生産効率向上のために、それ以外の拠点の統廃合を実施して費用がかさんだことが影響しています。ふたつ目は、ヨーロッパ販売を強化すべく、コマーシャルや新製品ローンチの費用が増えていることによるものです。限界利益の落ちこみと費用増加が重なりました。

決算短信補足資料P.17の製品別売上ならびに製品別の為替レートによる影響額を併せてご参照ください。

## サブセグメント別業績

### メディカル関連 内視鏡 / 眼内レンズ

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	246	257	+11	+5%

### 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	265	257	+19	+8%

\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

11

#### CFO廣岡：

メディカル関連製品（内視鏡、眼内レンズ等）の売上収益は257億円、前年同期比で11億円の増収（+5%）  
為替換算の影響を除くと実質的には19億円の伸びとなりました（+8%）

内視鏡は2%伸びていて、ヨーロッパで2桁の好調な伸びとなっています。  
眼内レンズは買収効果で30%の伸び、Like-for-Likeでも10%伸びています。買収した会社のPMIで費用がかさみ、利益率は低下しました。

## サブセグメント別業績

### エレクトロニクス関連 マスク&ブランクス / HDD基板

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	383	439	+56	+15%

### 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	447	439	+64	+17%

\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

12

#### CFO廣岡：

エレクトロニクス関連製品（半導体、液晶関連製品及びHDD用ガラス基板）の売上収益は439億円、前年同期比で56億円の増収（+15%）  
為替換算の影響を除いた実質的な増収額は64億円（+17%）

ブランクスは引き続きEUVが好調。韓国でのオプティカル（DUV）売上が在庫積み増しからの反動で若干Q2より減っています。  
HDD基板については、2.5"の減少を上回る形で3.5"の売上が増え、全体で17%の伸びとなりました。

## サブセグメント別業績

映像関連製品 光学レンズほか				
(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	100	88	-12	-12%

為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	89	87	-11	-11%

\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

13

CFO廣岡：

映像関連製品の売上収益は88億円、前年同期比で12億円の減収（-12%）  
為替換算の影響を除いた実質ベースでは11億円の減収（-11%）

カメラ関連の縮小が続いています。監視カメラも市場が停滞。ただ、売上は88億円とグループ全体に占める割合は小さく、影響は小さくなってきています。

## 貸借対照表

(億円)	Q2 FY19	Q3 FY19	QoQ
非流動資産	2,798	2,912	+113
流動資産	5,169	5,223	+54
<b>資本</b>	<b>6,370</b>	<b>6,528</b>	<b>+159</b>
非流動負債	314	311	-3
流動負債	1,284	1,295	+11
資本及び負債合計	7,968	8,134	+167

自己株式を消却（223億円）したことなどにより、資本は159億円増加

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

14

CFO廣岡：

非流動資産—有形固定資産が増えているのは、ベトナム（メガネレンズ）やシンガポール（EUVブランクス）など、償却が始まっていない工場が資産として計上されてきているためです。資本については、上期に取得した自己株式を消却した分とのネットで増加しています。

貸借対照表の詳細については決算短信補足資料P.11をご参照ください。

## キャッシュフロー計算書

(億円)	Q3 FY18	Q3 FY19	YoY
営業活動によるCF	341	401	+60
減価償却費	65	87	+22
投資活動によるCF	79	-117	-196
財務活動によるCF	-163	-279	-115
リース負債の返済による支出	-	-23	-23
現金及び現金同等物 期末残高	2,723	3,044	+321

新リース会計基準の適用により、減価償却費（営業CF）とリース負債の返済（財務CF）の間で入り繰りが発生。

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

15

CFO廣岡：

財務活動によるキャッシュフローにおいて、支払い配当金が169億円、自己株式の取得で92億円の支出があったのがハイライトです。

キャッシュフロー計算書の詳細は決算短信補足資料P.13をご覧ください。

## 自社株買いの状況

### 自社株買い① 昨年10月末に終了

取得上限：600億円  
期間：2019/5/8～2019/10/28  
取得株式総額：241億円（消却済）

### 自社株買い② 実施中

取得上限：500億円  
期間：2019/10/30～2020/4/23  
現時点までの取得総額：92億円（2020年1月末現在）

今期において実施した自社株買いは現時点で333億円（①+②）。

CFO廣岡：

自社株買いについては、2019年5月に開始したものが、取得上限600億円に対して半分弱しか実施できなかったため、再度500億円の枠で現在実施中です。  
できるだけ取得したいところですが、現状においては株価の状況もあり、取得額は92億円にとどまっています。



## Q4 & 通期 予測

- ✓ コンタクトレンズは増税の反動が続くものの、QoQでインパクトは和らぐ見込み
- ✓ 半導体ブランクスはEUVの需要にけん引され、Q4も強いモメンタム継続
- ✓ HDD基板は例年どおり季節要因（旧正月）でQoQで落ち込むが、YoYでは増収を見込む

### FY19 Q4

(億円)	Q4 FY18	Q4 FY19	増減	増減率
売上収益	1,415	1,446	+31	+2%
税引前四半期利益	314	354	+41	+13%
四半期利益	292	282	-11	-4%

### FY19 通期

(億円)	FY18	FY19	増減	増減率
売上収益	5,658	5,860	+202	+4%
税引前当期利益	1,447	1,550	+103	+7%
当期利益	1,221	1,230	+9	+1%

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

17

CFO廣岡：

FY19年間の予想としては、売上収益が5,860億円、税引前当期利益が1,550億円、当期利益が1,230億円となっています。

前提となる為替レートがUSドルが110円、EUROが120円です。

Q4は、ベトナムにおいて旧正月の影響で稼働日が少ないことを織り込んでいます。また、コンタクトレンズについては、消費増税後の反動から徐々に戻ってきているものの、ここから半年は影響が残ると見えています。

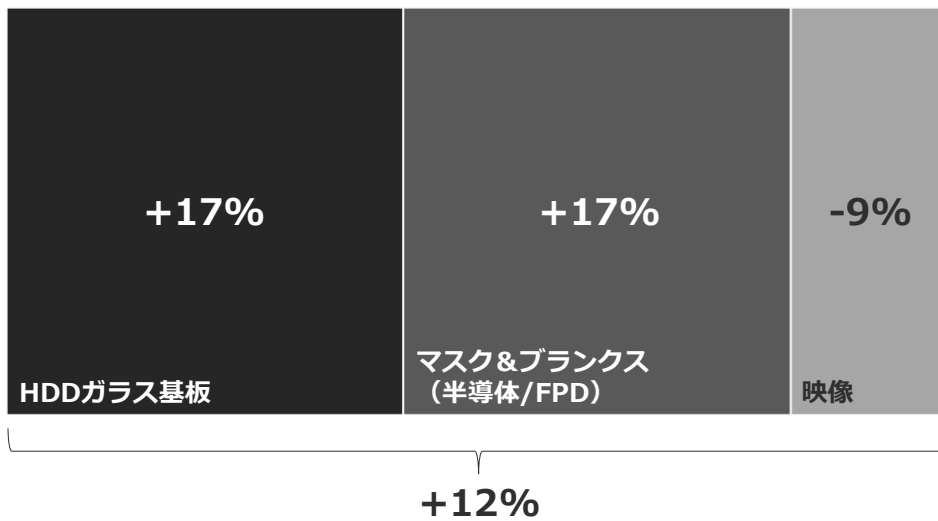
1. 決算概要
- 2. 情報・通信事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
3. ライフケア事業概況
4. 総括
5. 質疑応答

司会者：

つづきまして、CEOの鈴木より、情報・通信ならびにライフケアの事業概況について、ご説明申し上げます。

## 情報・通信事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



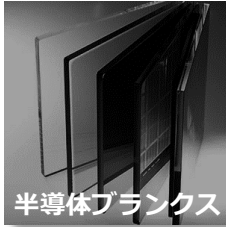
© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

19

CEO鈴木：

本日はCOOの池田が不在ですので、私から情報・通信事業についてもご説明申し上げます。

## 製品別概況



### 足元

一部顧客の在庫積み増しの反動からオプティカルは微減。EUVは前期比80%以上の伸び

### 今後

4月にシンガポールの新EUV製造ラインが稼働開始、認定を経て来下期より量産開始予定



### 足元

中国市場におけるOLEDの需要増を取り込み成長（主にG6）

### 今後

今後さらなる成長が予測されるOLEDマスク、中でも中国市場での拡大を推進

CEO鈴木：

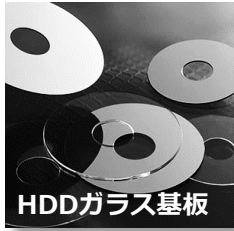
### 【半導体ブランク】

EUVがQoQで15%ほど、YoYでは80%ほど伸びています。オプティカル（DUV）については韓国の顧客が輸出規制管理強化に関連して前四半期に在庫を積んでおり、本四半期（Q3）は在庫を消化していたため、YoYで売上を少し落としています（EUVは当社の製造キャパシティ的に顧客が積み増すほど提供できなかったのが影響はありませんでした）。7nmのテープアウトが続いていて、DUVブランクもまだ伸びる環境ですし、韓国の顧客における在庫はQ3中に消化されているため、一過性のファクターと見ています。ファンダメンタル的に問題はありません。

### 【FPD/LSIマスク】

中国のメーカーがOLEDの立ち上げで苦労されているようです。OLEDパネルのパターンを立ち上げる際のトライアル&エラーによる需要があると見ています。他方、台湾のメーカーは中国から差別化しないと戦えないということで、従来の製品に色々と手を加えており、これもマスクの需要につながっています。

## 製品別概況



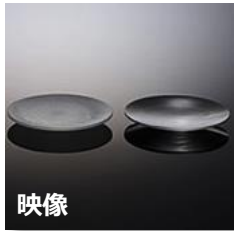
HDDガラス基板

### 足元

データセンター向けの需要増により3.5"売上が2.5倍の成長。3.5"売上比率は42%に拡大

### 今後

ラオス新工場（3.5"向け）が4月よりサンプル出荷、認定を経て来下期までに量産開始予定



映像

### 足元

カメラ市場の縮小により、引き続き減収

### 今後

積極的なコスト削減により収益性を確保

CEO鈴木：

### 【HDDガラス基板】

売上は良かったのですが、利益が少し落ちています。ラオスの新工場の立ち上げに加えて、製品ミックスの影響によるものです（2.5"が減っていき、3.5"が増えている）。

また、従来の95mm径（3.5"）だと記憶容量が足りないので、97mm径（3.5"）という規格が増えていきます。2mmしか変わらないのですが、外周が増えるので、テラバイト数を増やす効果があります。当社にとっては治具等にも影響し、コストが先行している状況です。この四半期だけでなくなる要因ではありませんが、基本的に一過性のファクターだと考えています。

全体としては、ノートPC向けの2.5"基板がフラッシュに取って代われ、データセンター向けの3.5"が拡大するという当初描いていたシナリオのとおりになってきました。

データセンター向けの3.5"については、16TB機の認定がほぼ取れていて出荷が始まっています。国内のHDDメーカーは16TBの開発が完了し、もう1社の米国のHDDメーカーは18TB機をローンチ予定となっています。2020年中に、16TBと同じフォームファクターで18TBを出すという難しいことをやろうとしており、もしできない場合はガラス基板を採用してくれる可能性があります。

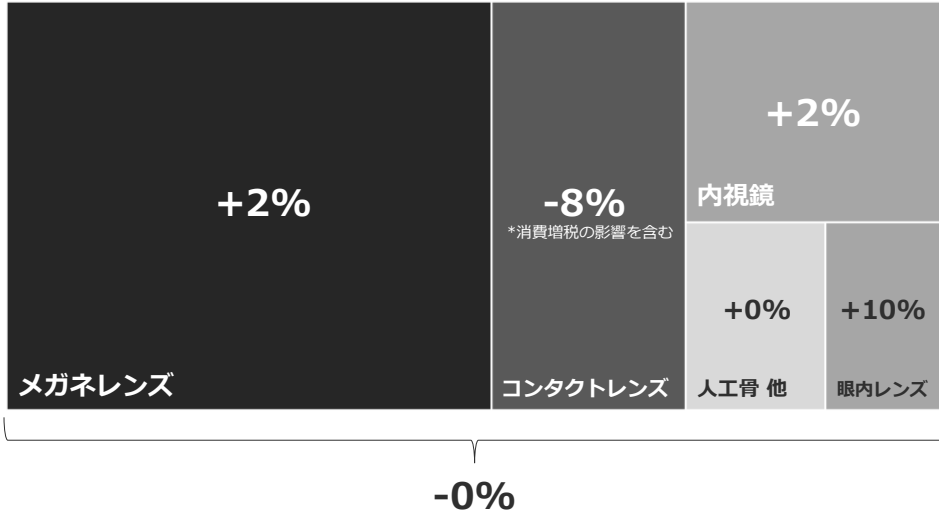
### 【映像】

デジタルカメラも交換レンズも売上が2割減。若干良かったのが、監視カメラ。在庫調整が一巡して戻ってきています。以前のように、中国国内に監視カメラを次から次へと置こうという動きではないので以前のように急成長することはないですが、最悪期は脱した模様です。

1. 決算概要
2. 情報・通信事業概況
- 3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
4. 総括
5. 質疑応答

# ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



## 製品別概況



### 足元

増税影響等で日本が減収も、欧州やアジアの高成長が継続。ベトナム第2工場がテスト生産開始

### 今後

商戦期のQ4を着実に売上に結びつけていく。ベトナム第2工場を徐々に立ち上げ



### 足元

増税に関連した駆け込み需要から反動減に。期末店舗数 326（買収込み）

### 今後

新規出店や空白地帯でのM&A等により、継続的に面の拡大を図る

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

24

CEO鈴木：

### 【メガネレンズ】

メガネレンズは「パーツで作って、ユーロで売る」比率が高いため、パーツ高、ユーロ安は為替の動きとしては最悪のパターンです。これが利益が出なかった最大の理由。また、ベトナムの第2工場の立ち上げも影響しています。本来資産計上してもよかったのですが、費用計上しています。費用としては一過性。また、収益性が比較的高い日本が、消費増税後の反動で落ちたことも影響しています。

### 【コンタクトレンズ】

コンタクトは消費増税の影響で前四半期に約40億円の駆け込み需要がありました。その影響で、本四半期は客数が13%-14%減っています。半年から1年分の在庫を購入したお客様もいらっしゃいました。影響としてはQ3が一番厳しい想定です。一方で、新店で9店、M&Aで2店増やして面取りを続けています。



## 製品別概況



### 足元

APACが二桁成長、中でも中国での汎用製品の販売が拡大した

### 今後

中国でのハイエンド製品販売開始を準備。新型インジェクターなど、新製品を順次投入



### 足元

米州で製品投入が遅れたものの、新製品の上市が先行している欧州が順調

### 今後

引き続き新製品を続々投入

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

25

CEO鈴木：

### 【眼内レンズ】

売上は2桁成長しましたが、2019年1月に買収した会社のPMIの作業を進める中で、製品デザインを変えなくてはならなくなり、在庫の評価減などを行っています。買収の時に分かっていたのですが、これは分かりえなかったです。これも一過性の要因で収益を落としている。

### 【内視鏡】

これまで市場に近いところで修理を行ってきたのですが、これをペナン（マレーシア）に移す作業をしています。また、現在日本で内視鏡の製造を行っていますが、こちらについてもペナンに徐々に移管していきます。日本の工場での費用が落ちないなかでの追加的な費用のため、収益性が落ちています。Q4もこの傾向は続きそうです。アメリカでは承認が遅れて新製品が出せないという問題もありました。

内視鏡とメガネレンズについては、どちらかと言うと内部問題が根本の課題で、Q4から来期Q1にかけてしっかりと修正していきます。

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括[代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

司会者：

それでは、質疑応答に移らせていただきます。

ご質問のある方は挙手いただき、ご質問いただく際に、会社名とお名前をお願いいたします。  
お時間が限られておりますので、お一人様 2 問までとさせていただきます。ご協力をお願い申し上げます。

## 質疑応答内容-1

Q

野村証券 和田木アナリスト

[EUVブランクス]

EUV向けブランクスが絶好調ななか、競合がシェアを伸ばすという話もありますが、今後の売上はどの程度までいけるとお考えですか？私は300億円、400億にいくと見ていますが。

A

CEO鈴木：

シンガポールのEUV向け新製造ラインは来年度Q2から出荷を予定しています。今はR&Dフェーズで需要が増えていますが量産になると成長率は徐々に落ち着いていくとみていて、短期的にはEUVブランクス2つの製造ラインがフル稼働になるということはないでしょう。

Q

野村証券 和田木アナリスト

[HDDガラス基板]

いつも参考にしているのですが、ストレージ系のHDDについてフラッシュメモリと絡めて今後の見込み教えてください。

A

CEO鈴木：

ハイパースケールのクラウドベンダーで伸びが強いのはG社だけで、A社はそこまで伸びていないこともあり、今後市場が一気に伸びていくとは思っていません。

## 質疑応答内容-2

Q

ジェフリーズ証券 中名生アナリスト

[EUVブランクス]

EUV露光が量産フェーズに移行するにつれてブランクス需要が落ち着くとのことですが、微細化が進むにつれてEUV露光が使われるレイヤー数が増えることによるブランクス需要増をどう見ていますか？また（EUV露光を必要とする高機能な）デバイスの増加は需要増につながりますか？

A

CEO鈴木：

レイヤー数の増加がブランクス需要増加に本格的に貢献するのは次のノードに移ってからと考えていて、時期的には2022年ごろとみています。

EUV露光を製造に使うデバイスやデザインは両手で数えられる程度でしょう。

Q

ジェフリーズ証券 中名生アナリスト

[メガネレンズ]

「メガネレンズ事業のアメリカを直していく必要がある」とコメントされていましたが、現況を詳しく教えてください。去年までアメリカは好調だったと思うのですが。

A

アメリカのチェーン店開拓に力を入れていて、これはうまくいっています。

一方でインディペンデント向けの営業人員の離職が続いたことから、新しく営業人員を採用しトレーニングをしており、次々四半期から戦力化することで成長に戻れるでしょう。今回の離職は待遇面というよりは、アメリカのマネジメントにも原因があると考えており、入れ替えを行い、やり直しているところです。

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

29

## 質疑応答内容-3

Q

ジェフリーズ証券 中名生アナリスト

[メガネレンズ]

欧州の大手チェーンの顧客が競合との統合を計画していますが、この顧客との今後の関係について教えてください。

A

CEO鈴木：

欧州規制当局による承認が手続きの関係で当初計画より伸びていますが、いずれ承認されるでしょう。当社とこの顧客の具体的な交渉は顧客と競合のディールの（欧州規制当局による）承認を待っている状況ですが、時間をかけてお互いにとって良い方法で徐々に取引を減らしていくという考え方についてはお互いに合意できています。

Q

CLSA証券 吉田アナリスト

[ライフケア]

消費増税後の反動減があったとのことですが、利益率が前年同期比で低下している要因について教えてください。

A

CEO鈴木：

簡単に言うと、消費増税後の反動減、為替影響、その他がそれぞれ1/3ずつ利益率の低下に影響しています。意外と為替が効いていて、ユーロ安でパーツ高となるとメガネレンズへの影響が大きくなります。

## 質疑応答内容-4

Q

CLSA証券 吉田アナリスト  
[ブランクス]

EUVブランクス向けの製造キャパシティはすぐにはフル稼働にはならないとのことですが、リードタイムの長い検査装置は今後どの程度の期間で追加で必要になりますか？

A

CEO鈴木：

今の検査装置で次々世代の検査が出来るかどうかまだ誰も分かっていないので、はっきりするまで次の検査装置を買うのを待っているところです。  
また一番目の製造ラインを作り変えも必要なので、シンガポールのラインが立ち上がった後、そのための投資を行います。

Q

JPモルガン証券 中村アナリスト  
[ライフケア]

利益率低下要因でその他要因が1/3を占めているとのことですが、今後どの程度の期間での解消を見込んでいますか？

A

CEO鈴木、CFO廣岡：

眼内レンズは買収した会社との統合作業に関連した費用で当四半期のみの一時的費用です。内視鏡はもう少し解消まで時間がかかります。メガネレンズのベトナム第2工場にかかる費用はこの第3四半期がピークだったので、次の四半期は大丈夫でしょう。ライフケアは4Qは楽観視していますが、情報・通信は季節要因（旧正月）等で頭を下げるでしょう。

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

31

## 質疑応答内容-5

Q

みずほ証券 山本アナリスト

[M&A]

ニューフレアの予告TOBを行っていましたが、ブランクス事業において過去10年は半導体製造装置メーカーと提携・買収を行ってきませんでした。何が変わったのでしょうか？10年以上前に同社は第三者割当増資を実施しましたが、その時に買収できなかったのでしょうか？

A

CEO鈴木：

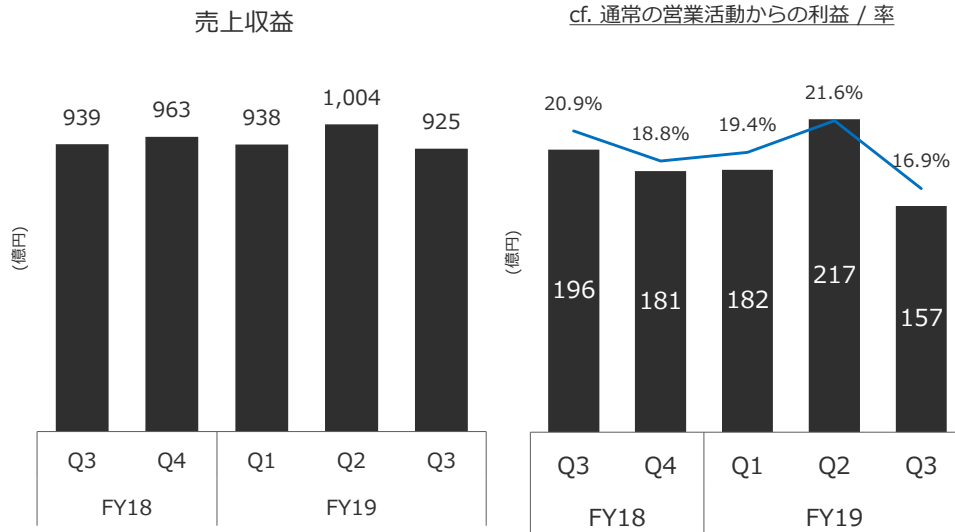
フォトマスクは完成後も修正が必要ですが、良いブランクスを作るには検査装置メーカーや描画機メーカーとかなり深く一緒にやらないとうまくいかなくなってきています。買収したほうがうまくいくという意味ではないのですが、その点が、昔に比べると随分変わったところです。そういう商売の進め方をしないとうまくいきません。

10年前にニューフレアテクノロジー社が第三者割当を行ったときは買収を検討していませんでしたが、その後東芝社に買収提案をしたところ待つように言われ待っていたところ、東芝社によるTOBが始まったというのが経緯です。



# Appendix

# ライフケア事業 QoQ推移

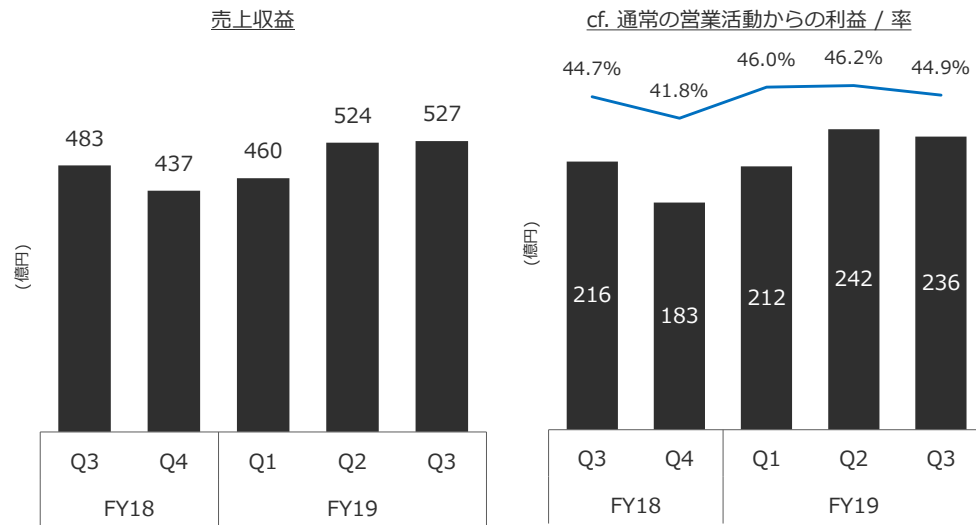


\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

34

# 情報・通信事業 QoQ推移



\*外部売上の数値

© 2020 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

35

## Topics

### [メガネレンズ] ベトナム新工場がテスト生産開始

2019年11月、ベトナム中部のクアンガイにてメガネレンズの新たな生産拠点の稼働を開始しました。8ヘクタールの広大な敷地に2つの建屋を擁し、年間で最大1.4億枚のメガネレンズ（汎用レンズ）を生産、世界最大級のメガネレンズ生産規模により、グローバルで増加を続ける需要に対応していきます。現在は第1建屋にてテスト生産を開始していますが、FY20初頭には第2建屋も稼働開始予定です。



### 暗所視支援眼鏡を全国の盲学校に

社会福祉法人日本ライトハウスが発起人となっているクラウドファンディング『盲学校の生徒に星空を。暗闇で見える暗所視支援眼鏡を届けたい。』プロジェクトに協賛いたしました。クラウドファンディングでは目標の300万円を大きく上回る 348 万円の寄付が集まり、当社は全国12校の盲学校に、暗所視支援眼鏡「HOYA MW10 HiKARI」を特別価格にて贈呈しました。HOYA は今後も日本ライトハウスによる本寄贈プロジェクトを支援していきます。



## 本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2019年4月～2020年3月の会計期間を2020年3月期もしくはFY19と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第3四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。  
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。  
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

## 免責事項

---

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。